



皇后陛下の御巡覽を

幼稚園に仰ぎ奉りて

東京女子高等師範學校附屬幼稚園主事

倉 橋 惣 三

畏くも 皇后陛下には、本年十二月三日、東京女子高等師範學校並に同校内東京特設中等教員養成所へ行啓あらせられ、午前十時、學校へ着御。便殿に於ける拜謁、講堂に於ける全校の奉迎、學校長の言上の後、午前は正午まで、幼稚園、小學校、高等女學校の御巡覽、午後は三時まで、本校及び養成所の授業御巡覽の御順序を以て、先づ幼稚園に成らせられた。

この日は前後になき快晴。一天高く廣くぬぐひきよめられて、一片の雲翳だになく、秋の光り燦々としてふり注ぐが如く、秋のあたゝかみ和やかに包むに似て、まことに、國母陛下を迎へ奉る日の喜び、早曉より全校に漲りわたつてゐた。

本校玄關から幼稚園へ、初夏には籬長く紅白の薔薇咲き盛るあの鋪道を、下村校長の御先導にて、皇后太夫、女官長、行啓主務官、文部大臣、厚生大臣その他の扈從者を従へさせられて、靜かに玉歩を進ませられた。その途中に、特設養成所生、戦歿軍人軍屬未亡人の寄宿寮に母と共に住む幼き遺兒達が、寮の保母と共に列んでゐる。又幼稚園玄關に近く園兒の一群が奉迎してゐる。私は講堂の儀が了つた後、急いでその場へ先行して、遺兒達の傍に添ふて立つた。私は、深い最敬禮から頭を上げると共に、その遺兒達に御目を賜ふ、陛下の御いづくしみを拜して、再び、恐懼の胸をかゝめた。



幼稚園の御巡覽は、平常のまゝにこの思召をもこゝしつゝ、次の順で御案内申上げた。茲に、當日豫め奉呈した、授業の概要の中から幼稚園の部分を抜萃する。

附屬幼稚園

○自由畫「慰問繪はがき」
年少組幼兒
 年長組幼兒

保姆及川ふみ
 保育實習科生三名

圖畫のための圖畫でなく、繪はがきといふ實際の用途に結びつけて描かしめる。尙之れを皇軍慰問に用ふるこゝによつて時局下の實踐教育を志す。

○粘土製作
年少組幼兒
 年長組幼兒
 (紙粘土利用)

保姆清水光子
 保育實習科生三名

在來の自然粘土に代へて、古新聞紙ミヌ糊ミで、容易に作り得られる所謂紙粘土を用ひる。物資活用の一つとして本園の考案による。

○誘導保育「時計店」
年長組幼兒
 (あき箱利用)

保姆船田ふさ
 保育實習科生四名

手技のための手技でなく、時計店を目的として製作せしめる。一面、時間の基礎的經驗を與へ



ると共に、國民學校理科への基本的關係を目ざす。物資利用のため空箱を用ふ。

○唱 歌 遊 戯 年長組幼兒

保 姆 小 鳥 そ の
 保 姆 町 田 行 子
 保 育 實 習 科 生 七 名

歌詞は國民的なるもの、勤勞的なるもの、情操的なるものを選び、遊戯は動作の優美さいふ他に、大筋肉の力強き運動を主とさせる。

一、「こつきふれふれ」(最新作曲幼稚園唱歌集所載)

- (一) こつきふれふれ ふれふれこつき
 あかいたすきの へいたいさんが
 いつてきますと げんきなかほで
 きよしゆのけいれい いさましい
- (二) こつきふれふれ ふれふれこつき
 しるいたすきの おばさんたちが
 かつてかへれと げんきなこゑで
 みんなでばんざい いさましい
- (三) こつきふれふれ ふれふれこつき
 いつてください おくのために
 かつてください おくのために
 ゆくもかへるも いさましい

二、「みちぶしん」(新體幼稚園唱歌所載)

- (一) つるはしでほるひと



しゃべるですくふひと

みちぶしんのこうふさん

いつしやうけんめいはたらく

(二) げんきのいゝかけごえ

ひやうしなうまくあはせて

おほぜいのこうふさん

いつしやうけんめいはたらく

(三) おととひはむかふかぞ

きのふはここのかぞ

みちぶしんのこうふさん

いつしやうけんめいはたらく

三、「小鳥のおはなし」(最新作曲幼稚園歌集所載)

(一) ことりとこどりのおはなしは

ちゆんくちゆんくえだのうへ

むかふのおやまのてつべんに

まつかなきのみがなりました

あまいおいしいきのみです

(二) ことりとこどりのおはなしは

ちゆんくちゆんくえだのうへ

むかふのおがはのかはべりに

かはいゝおはながさきました

うすももいろのいいにほひ



○砂場 あそび 年長組幼児

保姆菊池 フジノ

囑託上 遠 文子

保育實習科生 九名

自由創作の最好材料として、砂の價値を十分に發揮せしめ、殊に作業の繼續によつて、聚注ミ根氣ミの鍊成に機會を與ふることを主眼とする。

陛下には、たえず、貴くやはらかき御ほゝえみをたゞへさせ給ふて、室から室へ、机から机へ、幼兒から幼兒へ、御熱心に御巡覽あらせられた。その長くも御興味いさも深げに拜し奉るごこの出來た有り難さに、私はつい、御そばは近くいろくごこのを申上げた。保育の理なき、更めて御説明らしく申上げる必要もないごこであるが、その場その場の保育のごころを、保姆諸君に代つて申上げた。畏れ多くも陛下には、數々の御下問を賜ひ、更に畏れ多くも御手づから、幼兒の作品なきを取り上げ給ひ、第一の室では、クレイオン描きの慰問繪はがき、第二室では繪具仕上げの紙粘土製作、第三室では、木杵造りのトケイヤ店に列べられた空箱時計なき、わけても、ほゝえませ給ふを拜した。

遊戯室では幼兒達が「こつきふれふれ」「みちぶしん」を、歌聲も大きく、床音も高く、元氣一ぱいにおきつた。「小鳥のおはなし」を、曲もやさしく、振りもかはいくおきつた。前の二つは私の作詞であり、後のはよね子さんの作詞である。私共の作が、御耳に觸れるのも畏れ多いごこであるが、陛下には、幼兒等がおぎり終るまで、長く御起立のまゝ御覽を給ふた。それから、遊戯室のテレスを経て遊園へ御先導申上げたのであるが、流石にいつもよりおさなしくつゝしんで、幼兒達の動きもなんさなく靜かであつた今までの保育室と違つて、こゝは一ぱいの日なたでいつもの通り自由に遊んでゐる。ブランコを高く漕いでゐる。廣場を駈けてゐる。塵の上でまゝごこに夢中になつてゐる。三つ列んでゐる砂



場は、これも大入りで、粗けずりの中積木を使つて、レールが出来、トンネルが出来、壘壕が出来、トウチカが出来、そうした中で、敬禮も至極略儀で御ゆるしを頂いて、さつき遊びに没頭してゐる眞に幼児らしい幼児連も少なくなかつたらしい。そこでは、私達も、畏れ多い言ひながら、秋晴の野に子ども等さいつしよに侍して立つてゞもゐるやうに見えたことであらう。そして、すべり臺の下で奉拜してゐる二人の泰國留學の保育見習生サワツトミタノムミのこを申上げたのこ、砂場の中で幼児と共に山を築いてゐる、戦歿將校未亡人山村靜子實習科生のこを申上げた以外には、たゞ純、たゞ眞な、幼児の世界そのまゝの裡に、貴き御時をお過ごし頂いたのであつた。

斯うして、光榮の二十餘分が了つたのであるが、一旦本校便殿に御休憩になつた陛下には、再び、小學校、高等女學校も、國民普通教育の實際に、御心を垂れさせ給ふたのである。六年前の行啓には、講堂の式へ臨御が主で、陳列室で生徒兒童幼児の成績品を御覽に入れたゞけであつたから、この大塚の園舎に親しく玉歩を迎へ奉つたのは、この日が最初である。明治九年お茶の水に創設の時から、皇室の特別の御恩寵を被つて居り、代々の國母陛下の行啓を仰いだこと、園として誠に言葉につくし難い感激であるが、更に又思へば、この恩寵は、決してこの園だけへの光榮ではない。全國の幼稚園、ご申すよりも、全日本の幼児への深き御心に他ならないのである。これは、全國の幼児教育者全體が均しく感じてゐて下さることと思ふし、私共も、その心にならなければならぬことである。従つて、御巡覽の御内意を拜した時から、私は、この幼稚園、この幼児を御覽いたゞくさいふよりも、日本の幼児の幼稚園生活を御覽いたゞくこと考へた。私としては、召されて連續の御進講の光榮に浴させて頂いてゐた時に申上げた言葉の節々を、今この實際へ結びつけさせて頂きたいといつたやうな、そうした思ひも潜まないでもなかつたのであるが、それよりも、先づ希つたことは、日本の小さい幼児等が、如何に健康に、如何に幸福に、幼稚園に於て楽しんでゐるか、それをこそ御目にさめさせられて頂き度いのであつた。私はこの心持ちを、行啓に先立つて、園の保護者達にも語つた。そうして、この日、あの御機嫌うるはしく御巡覽下さる御心は、日本の幼児の幼稚園生活全體の晴々しさを楽しさを、御感いたゞい



てゐることを拜した。

尙ほ、謹んで感激を記させていたゞくならば、この時局下、さきには、天皇陛下東京帝國大學に行幸を賜ひ、この日皇后陛下の行啓を仰ぐ。國事多端の中に、特に教育のことに斯くも深き御心を垂れさせ給ふこと、まことに恐懼感激にたえない次第である。教學のことに常に一刻も忽せにすべからざるは言を俟たないこととして、國運愈々隆昌、その内に充ち、外に互るべきもの、方に比なく、今に處するこの忽甚大なると共に、後に備ふべきの計深遠ならざるを得ない今日、教學尊重の要、實に無限さいはなければならぬ。加ふるに、この至上の聖慮を拜す。任教學の一端にあるもの、一層の奮勵なくしてはあり得ないのである。而して、二千六百年奉祝の式典に際しても、又教育に關する勅語喚發五十年の祝式に際しても、全國幼稚園教育者の代表として多數の幼稚園保母諸君は之れに列する光榮を擔ふたのである。苟も皇國の幼兒をその手にゆだねられ、聖恩の下、國民保育の重任に當る者、今年は誠に感激の多い年であつた。

午後は、本校で特設養成所まの十に餘る教室授業を、運動場に於ける體操を遊戯を御巡覽遊はされ、その間、特に奮起してまゝに生徒として學びつゝある遺族未亡人等に奉拜をゆるさせられ、午後三時を過ぎて全校奉送の裡に還啓遊ばされた。幼兒等はその後で、迎への母等に伴はれて、平生にもまさる嬉嬉たる後姿を見せて歸つて行つた。有り難い「皇后陛下の御菓子」を、うれしく抱きしめて。げに、子まの今日の喜びは、みんなに深かつたのであらう。一人々々の小さい胸に、みんなに強い感激を湛えたことであらう。その純白の心に、みんなに輝やかしく此日を印象したことであらう。

幼兒等畏みつゝも嬉しげに

小鳩のやうに遊びたはむる

これは、下村校長の示された、當日の感吟である。幼兒等の喜びを、感激を、まことに歌ひつくさされてゐる。幼兒等成長の後に、この歌によつて、光榮の幼時を思ひ出すであらう。

(昭和十五年十二月七日謹記)